

氏名： 水村 (久埜) 真由美 (KUNO-MIZUMURA Mayumi)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 博士 (教育学) / Ph D  
専門分野： 身体運動科学  
URL： <http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Mizumura/HTML/index.html>  
E-mail： [mizumura.mayumi@ocha.ac.jp](mailto:mizumura.mayumi@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

身体運動/運動生理/動作解析/舞踊表現/健康科学  
human movement / exercise physiology / motion analysis / expression in dance movement /  
health sciene

#### ◆主要業績

総数 (9) 件

- ・「ダンサーなら知っておきたいからだのこと」2008、大修館書店、東京.
- ・「小学生児童の体力特性の経時変化～2001年と2008年の比較から～」水村 (久埜) 真由美、森曜生、鈴木早紀子、吉田真咲、橋本有子、高木悦子、村上博之、石塚諭、横山善実、栗原知子 2008、人文科学研究、第5巻、pp.92-100.
- ・「日本舞踊における女らしさの表現～印象評価実験に基づいて～」(猪崎弥生、水村 (久埜) 真由美) 2008、8(2)、pp.77-83.
- ・「踊る身体を科学する」2008、体育科教育、56(3)、pp54-57
- ・「ストレッチング」2008.2. 佐藤佑造、川久保清、田畑泉、樋口満編『健康運動指導マニュアル』, 宮地元彦ほか51名, 文光堂、東京、pp.237-243.

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

今年には主に1) 舞踊動作の自然科学的研究、2) 子供の身体能力の発育発達研究3) ストループ課題中の自律神経活動に舞踊経験が及ぼす影響、4) 家事作業中の身体負荷に関する研究の4つを行った。1) は2つの調査を行い、1つめは科研費採択により取り組んだ共同研究で、日舞およびクラシックバレエ熟練者の動作をモーションキャプチャーシステムにより取得し、その動作特性とその動作を鑑賞した者が受けた印象を質問紙調査により検討することにより、表現の動作特性と認知特性の両面から舞踊の独自性および個性を調査した。2つめは、舞踊動作の動作解析と筋電図学的研究の可能性を検討し、その内容を韓国ダンス科学会議において招待講演として発表した。2) は本学着任以降、附属小学校のからだ部と連携して行っている小学生児童の体力変化に関する縦断的な調査を行った。またこうした研究調査のデータを基に学校教育における体育および舞踊教育の役割について検討した。3) は本学特別教育研究経費「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」プロジェクトの学内公募採択研究である。4) は生活科学部教員との共同研究でユビキタス実験住居を利用した研究テーマである。なお今年度も、科学技術振興機構よりお茶の水女子大学が採択された「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」により、子育て中のモデル研究者として研究補助のアカデミックアシスタントが採用され、研究支援を行ってくれたことから、円滑な研究活動を続けることができた。

Research project in 2008 was consisted of two main topic. 1) Biomechanical characteristics of dance movements. 2) Physical fitness and health status in elementary school children. First research topic was long-term research project for our laboratory In 2008, we focused on the biomechanical characteristics of Japanese traditional dance and classical ballet for skilled dancers. Second research topic was collaborative studies with teachers of elementary school attached to Ochanomizu university to promote children`s health status.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育としては、解剖学、運動学、動作学、生理学、動作学実験演習、表現行動論、身体文化論、健康スポーツ実習（筋力トレーニング）を担当し、大学院では表現行動科学特論、表現講堂科学実験演習を担当した。また研究指導は、学部生4名、博士前期課程1名の卒業論文と修士論文の指導を行った。また博士後期課程3名の大学院生については、引き続き学位論文に向けての研究指導を行った。卒業論文、修士論文のテーマは以下の通りである。卒業論文「筋疲労に対するダイナミックストレッチングの効果」「クラシックバレエダンサーの大腿にみられる筋断面積および筋体積の特徴」「ダンストレーニングがスタティックストレッチング直後の筋力発揮に及ぼす影響」「下肢アライメントと関節弛緩性が大腿部の筋厚に及ぼす影響」修士論文「立位での体幹屈曲・伸展動作における脊柱可動性の加齢変化」なお院生が、日本体力医学会にて2演題、日本バイオメカニクス学会にて1演題、それぞれの研究テーマで研究発表をし、その指導を行った

In 2008, I have taught anatomy, exercise physiology, biomechanics, kinesiology, biomechanical experiment, human movement science and PE class (resistance training) for undergraduate students. For graduate students, I have had two more classes. I have supervised four under-graduate students, one master students, and three Ph.D students for their own research project. Three graduate students made presentation at national conferences.

## ◆研究計画

舞踊を中心としたさまざまな身体運動による人間の身体諸機能の可塑性を検討するとともに、熟練した舞踊動作、いわゆる芸術性の高いと評される運動の成立のメカニズムを解明したいと考えている。メタボリックシンドロームなどの健康問題が社会的に注目されている今日、運動実践の意義は現代に生きる我々にとって大きな意味をもつ。こうした運動を行う健康科学意義あるいは難しい運動を学習する過程での身体の可塑性について今後も研究を発展させたい。共同研究の可能性としては、子供から高齢者に至る老若男女あらゆるヒトの健康に対して運動の有効性を検証する研究を、「健康」に関わるすべての団体（民間企業や地方自治体など）と共同で行う実績ももち、今後もそうした共同研究を進めたい。また運動の中でも「踊り」を中心とした、研究対象としては、「子供」や「女性」を対象とした研究に興味をもつ方たちとの共同研究を進めたい

## ◆メッセージ

人間の行う動きは非常に複雑で巧みです。その動きや動きを起こす身体のしくみに興味をもって地道に研究を続けられる若い人たちと一緒に研究をしたいと思っています。私が所属するコースは、国立大学法人唯一の舞踊を専攻することのできるコースです。またその中であって、私は唯一自然科学系の学問領域から、舞踊やスポーツ、さまざまな運動を対象として、研究を行っています。「舞踊を科学」してみたい人にとっては、まさに日本で唯一の教育環境といってもいいでしょう。また働く女性とし、母として、女性のライフスタイルと運動や健康に関しても大きな興味をもっています。エネルギー溢れた女性のライフスタイルをサポートする研究を一緒に行ってみませんか？ 老若男女を問わず、運動が人間の身体に及ぼす影響について、健康科学や身体表現の観点から、企業とも共同研究を進めています。今後とも積極的に共同研究を行いたいと思っています。

I am interested in complicated but well-organized human movements from simple human walking to beautiful dancing. My laboratory is the only dance and exercise science laboratory in Japan. I would like you to join our research projects to know both basic and applied scientific evidence of human movements including dancing.